



宮城県における農産物の 海外輸出の状況について

宮城県農政部園芸推進課流通ビジネス班
技術主査 嶋田 圭



背景

【国】

- 総人口の減少、国内市場の縮小は不可避
- 『農林水産物・食品輸出拡大実行戦略』を策定
⇒輸出目標達成に向けた取組を展開

【県】

- 国内市場が縮小する中、県の農林水産業や食品産業が発展していくためには、海外への販路開拓・拡大が重要
- 広く海外に目を向け、積極的なプロモーションや新しい商流の構築に向けた取組を展開



宮城県農林水産物・食品輸出戦略の策定

●基本理念 「みやぎの“おいしい”を世界に届ける」

平成29年3月 宮城県農林水産物・食品輸出促進戦略を策定

令和4年3月 宮城県農林水産物・食品輸出促進戦略（2022年度版）に改定
【計画期間：令和4～6年】

令和7年3月 **宮城県農林水産物・食品輸出促進戦略（2025年度版）**に改定
【計画期間：令和7～9年】

●基本方針

- （１）輸出に取り組む事業者の増加と利益拡大
- （２）販路拡大による輸出品目と輸出量の増加
- （３）持続的なバリューチェーンモデルの構築
- （４）パートナーシップの充実



輸出基幹品目

【2022年度版】

⇒ 「水産物」、「米」、「牛肉」、「いちご」、「日本酒」



【2025年度版】

⇒ 「さつまいも」を追加

- ・ 近年の需要拡大により、作付面積が増加
- ・ 海外での高い評価により、輸出量の拡大、新たな産地形成に期待

〈目標指標〉

- ・ 海外販路開拓、ビジネスマッチング、輸出に取り組む県内企業数
輸出商品数、輸出総額、輸出先国、事業者連携、東北各県との連携



さつまいもの生産・輸出に関する現状

- ・ 宮城県産さつまいも 作付面積 5 6 h a、収穫量 6 9 4 t
(2023年産、農林水産統計)
- ・ 令和 3 年 3 月 「宮城園芸特産振興戦略プラン」策定
↓ (中間見直し)
令和 6 年 3 月 さつまいもを県戦略品目に追加
- ・ 東南アジアを中心に高い人気があり、需要が増加
- ・ J A グループが主体となり、令和 3 年から香港へ輸出

〈課題〉

- ・ 需要に対して供給が不足 ⇒ 生産体制の強化が必要
- ・ 海外輸送中の腐敗率の低減に向けた対策が必要



さつまいもの生産・輸出に関する取組

- ・キュアリング施設、貯蔵施設、洗浄や収穫の機械など投資を要する品目であり、県内での栽培ノウハウが蓄積されていない
- ・県内で徐々に生産が拡大しているが、地域ごとの取り組みに留まり、大規模な産地形成には繋がっていない



- ・宮城園芸特産振興戦略プラン（令和３年３月策定）
- ・みやぎの実需者連携園芸作物団地プロジェクト
「宮城県さつまいも生産振興部会」



さつまいもの生産・輸出に関する取組

●具体的取組

(1) 種苗供給体制の構築

育苗の経営指標、手引きの作成、育苗研修会の実施

(2) 栽培・貯蔵等技術の向上

広域栽培研修会、出荷規格検討会、視察研修の開催

(3) 施設整備・収支モデルの構築

補助事業による導入支援、経営調査の実施

(4) 産地拡大・販路の統合

補助事業によるサプライチェーン構築支援



目標・目指すべき姿

- さつまいもの輸出産地の形成
 - 生産技術の改善による収量・品質の向上と安定供給の実現
 - 新たな海外販路の開拓と輸出商品の開発
-
- 県内の生産者、関係機関が協力し、事業等を活用しながら
輸出産地の形成を目指す
 - 海外販路の積極的な開拓、輸出先国や地域の需要に応じた
商品開発を行い、更なる輸出拡大を図る



ご清聴ありがとうございました